

&lt;送信者&gt;

高知県文化環境部文化推進課

四万十川流域振興室

TEL.088-823-9795 FAX.088-823-9296

E-mail shimanto@pref.kochi.jp

## 自然にやさしい大正町の林内作業路

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は、大正町役場で平成8年から始まった、低コストで環境に配慮した林内作業路づくりについて紹介します。

大正町は、総面積の93%を山林が占める山間地域で、878haに及ぶ町有林は町が管理運営しています。林業不振の中、当時林務担当となった田辺課長は、「この山をなんとか宝の山にしたい」との思いから、山を歩き、文献を調べ、辿りついたのが、日本の作業路の大家・大橋慶三郎氏の門下生である橋本氏（徳島県）が実践する作業路でした。この作業路は、間伐などの作業に一時的に利用するだけでなく、車で巡回したり、材木を搬送したり、継続的に利用できる高密度作業道です。田辺課長は橋本氏のもとで研修を積み、独自の改良を加えて作業路づくりに着手しました。

大正町は地形的に急峻なところが多く、環境保全やコスト面を考えると広い作業道は作れません。

①コストを安く②自然災害に強い③維持管理が容易で恒久的に使用できることをポイントに、幅員3m未満で2t車や林内作業車が木材を搬送できるように設計された作業道は、基本的にコンクリートを使わず、現場の地形を生かしながら道を伸ばし、資材もできるだけ周囲にあるものを活かし、かつ捨てる土砂を出さないように工夫されています。また、道の外側に表土を張り植生回復が容易になるよう試みたり、支障木を作らないなどの自然に優しい配慮が施されています。費用は、県や町の補助金で1mあたり1,500円と安価で、年間30~40kmのペースで、総延長約180km(H15末)が整備されています。

この作業道は、木材の搬出を目的に作られたものですが、間伐の作業や搬出にも使われ、きめ細かな山の管理もできることから、山が元気になり、人の雇用が生まれ、現金収入も生まれるなどの好循環を実現。今では町有林からの収入も増え、町の産業活性化への役割も担っています。

「今後は木材の地産地消に取り組み、林業を中心とした特産品の開発や観光遊歩道などへの資源活用も図りたい」と語る田辺課長の作業路は、林業再生、山村活性化への一つの光明として、いま全国の注目を集めています。

●お問い合わせ／大正町産業課 TEL.0880-27-0113



▲崩壊を防ぐため法面は1.5m以下の直切りに。



▲土留めに埋め込まれた広葉樹の切り株。

### Topics

#### メルマガ「四万十川源流域・かわうそ通信」を購読しませんか？

地域づくりに関する情報等を広くPRするため、双方向でのネットワークづくりをめざし、平成15年1月にスタート。四万十川源流域とニホンカワウソが最後に目撃された新荘川流域をキーワードとする楽しい話題やイベント情報の他、全国から寄せられた情報を編集して配信するメールマガジンで、現在全国(海外にも)に700名の購読者がいます。購読(登録)料は無料、情報掲載料なども一切不要です。週に2~3回程度を目標に配信しています。

●詳しくは/<http://www.mag2.com/m/0000104387.htm>